

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成18年2月19日 9時20分～11時45分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味2時間25分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) 各問題にはaからeまでの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。

(例) 101 県庁所在地はどれか。

- a 栃木市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

正解は「c」であるから答案用紙の

101  a  b  c  d  e のうち  c をマークして101  a  b  c  d  e とすればよい。

- (2) 答案の作成にはHBの鉛筆を使用し、濃くマークすること。
  - 良い解答の例……  (濃くマークすること。)
  - 悪い解答の例……   (解答したことにならない。)
- (3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。
- (4) 1問に二つ以上解答した場合は誤りとする。
- (5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

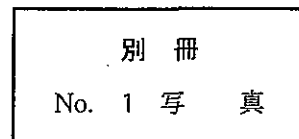
1 48歳の男性。腹痛を主訴に来院した。5日前から主に食後、上腹部に鈍痛を生じるようになり持続している。軽度の嘔気はあるが嘔吐はない。意識は清明。体温36.4℃。脈拍68/分、整。血圧136/80 mmHg。心雑音はない。心窩部に圧痛があるが、筋性防御はない。朝食を食べずに来院したので、直ちに上部消化管内視鏡検査を行った。内視鏡写真(別冊No. 1)を別に示す。

この患者の診察記録を問題指向型で診療録に記載した。

- S : ① 5日前から主に食後、上腹部痛(鈍痛)が生じるようになり持続している。軽度の嘔気(+)、嘔吐(-)である。
- O : ② 意識は清明。体温36.4℃。脈拍68/分で整。血圧136/80 mmHg。心雑音(-)。心窩部に圧痛(+)、筋性防御(-)である。
- A : ③ 内視鏡検査で胃に潰瘍性病変がある。
- P : ④ プロトンポンプ阻害薬を投与して様子を見る。
- ⑤ ヘリコバクター・ピロリの検査(呼気テスト)を予定する。

問題指向型医療記録の記載として適切でないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



2 初診患者(田中〇子、56歳)に対する担当医(山本医師)の会話を以下に示す。

- 医師 ①「おはようございます。私は内科医の山本です。お名前をお聞かせください」
- 患者 「田中〇子と申します」(下をみつめて低い声)
- 医師 ②「どうされましたか。来院された理由を詳しくお話しください」
- 患者 「実は1週間前から体がだるくなり、夜よく眠れなくなりました・・・」
- 医師 「それは大変ですね」
- ③「1週間前から体がだるく、夜よく眠れなくなったのですね。他に何かありませんか」
- 患者 「あの・・・、息子が勤める化学薬品工場で10日前に事故があり、巻き込まれて失明しそうなんです」(涙を流す)
- 医師 ④「どんな事故だったのですか。どうして事故が起こったのですか。息子さんはどこに入院しておられるのですか」
- 患者 「もう、顔が工場の薬でメチャメチャになり・・・」(涙を流す)
- 医師 ⑤「なるほど、そのようなことがあれば、辛いですね」
- 患者 「・・・」
- 医師 「ところで、体のだるさについて伺いたいのですが、例えば、横になるともう起き上がれないほどのだるさですか」
- 患者 「それほどでもありません」

医師の発言で調査的なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

3 入院中の患者と担当医の会話を以下に示す。

医師 ①「おはようございます。具合はいかがですか」

患者 「先生。あまり調子がよくないみたいです。体がだるくて」

医師 ②「そうですか。体がだるいのですね」

患者 「あまり食欲もなくて、だんだん体が弱っているようです」

医師 ③「食欲がなく、体が弱っていくのが心配なのですね」

患者 「ええ、このままでは体がだめになってしまうのではないかと心配したりして・・・」

医師 ④「気持ちが落ち込んでいるようですね」

患者 「ええ、ひどく不安で、夜もよく眠れないんです」

医師 ⑤「病は気からともいうでしょう。そんな弱気では、治るものも治りませんよ。頑張らなくてはいけません」

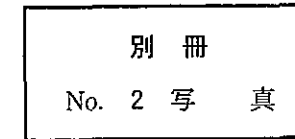
医師の発言で適切でないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

4 42歳の女性。3日前からの左眼の発赤、痒み及び眼脂を主訴に来院した。体温37.5℃。脈拍80/分、整。血圧110/80 mmHg。咽頭の軽度の発赤と左扁桃リンパ節の圧痛とを認める。左眼部の写真(別冊No. 2)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 外出禁止
- b 入浴禁止
- c 洗髪禁止
- d 手洗い励行
- e うがい励行



5 60歳の男性。1か月前から始まった頭重感を主訴に来院した。初診時と2週間後の血圧はそれぞれ150/90 mmHg、140/90 mmHgである。

血圧はどれに分類されるか。

- a 正常血圧
- b 正常高値血圧
- c 軽症高血圧
- d 中等症高血圧
- e 収縮期高血圧

6 67歳の男性。腹部のしこりを主訴に来院した。2年前から腹部のしこりに気付いていたが、最近急に大きくなってきた。触診上腫瘤は拍動性である。腹部の写真(別冊No. 3)を別に示す。

この患者の診断に有用なのはどれか。

- a 尿検査
- b 血液検査
- c 腹部超音波検査
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 腫瘤穿刺

別冊  
No. 3 写真

7 55歳の男性。今朝、排便時の大便に真っ赤な血液が付着していたため来院した。

まず行うのはどれか。

- a 直腸診
- b 便潜血反応
- c 便培養
- d 注腸造影
- e 大腸内視鏡検査

8 64歳の女性。肺癌に対して左肺全摘術を受け、経過観察のため術後7か月に来院した。胸部エックス線写真(別冊No. 4)を別に示す。

この患者で認めるのはどれか。

- a チアノーゼ
- b 頸静脈怒張
- c 肺肝境界消失
- d 心濁音界拡大
- e 左胸部呼吸音減弱

別冊  
No. 4 写真

9 72歳の女性。昨日から38℃の発熱があり、呼吸困難を主訴に来院した。高血圧のため、降圧薬を服用中である。意識は清明。身長155cm、体重48kg。体温37.5℃。呼吸数32/分。脈拍100/分、整。血圧120/80mmHg。胸部聴診上、右背部にcoarse cracklesを聴取する。血液所見：Hb 13.0g/dl、白血球9,000。血清生化学所見：血糖125mg/dl、Na 135mEq/l、K 4.0mEq/l、Cl 98mEq/l。CRP 11.0mg/dl。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH 7.48、PaO<sub>2</sub> 76 Torr、PaCO<sub>2</sub> 32 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 20mEq/l。胸部エックス線写真で右下肺野に浸潤影を認める。

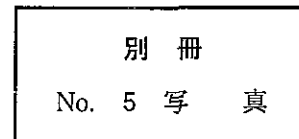
この患者の入院適応の判断で最も重要なのはどれか。

- a 体温
- b 血圧
- c 呼吸数
- d 白血球数
- e 動脈血酸素分圧

10 55歳の男性。頸部の腫脹を主訴に来院した。2か月前から左頸部に硬い腫脹が生じ、次第に増大した。現在は約4 cm大で可動性はなく、圧痛、自発痛もない。頸部の写真(別冊No. 5)を別に示す。

最も重要なのはどれか。

- a 咽喉頭視診
- b 耳鏡検査
- c 聴力検査
- d 嗅覚検査
- e 頭部エックス線単純撮影



11 32歳の男性。腹痛を主訴に来院した。2か月前から時々腹痛を起こしていた。1週間前から朝、腹痛で目覚めることが多くなり、1日に数回の腹痛と便意とを生じるようになった。排便すると腹痛は軽快する。便通は1日に3、4行、泥状である。便に血液の付着はない。2週前、同僚と暴飲暴食をしたことがあった。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧132/80 mmHg。腹部の聴診で腸雑音が亢進し、下腹部に圧痛を認める。筋性防御を認めない。血液所見：赤血球420万、Hb 14.2 g/dl、白血球5,600。

最も考えられるのはどれか。

- a 十二指腸潰瘍
- b 胆嚢炎
- c 慢性膵炎
- d 過敏性腸症候群
- e 食中毒

12 72歳の男性。体動時の息切れと動悸とを主訴に来院した。数年来、時々新鮮血が便に付着していたが、最近付着する頻度が増え残便感を自覚するようになった。10日前から下血を繰り返し、体動時の息切れと動悸とが出現した。意識は清明。体温36.8℃。脈拍108/分、整。仰臥位血圧110/80 mmHg、坐位血圧92/60 mmHg。眼瞼結膜は貧血様で眼球結膜に黄疸を認めない。心尖部に2/6度の収縮期雑音を聴取する。血液所見：赤血球392万、Hb 9.6 g/dl、Ht 28%、白血球4,000、血小板40万。血清生化学所見：総蛋白6.6 g/dl、アルブミン3.6 g/dl、尿素窒素16 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、総コレステロール192 mg/dl、総ビリルビン0.8 mg/dl、AST 40単位、ALT 32単位、Na 137 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 100 mEq/l。

この患者で認められる可能性が最も高いのはどれか。

- a 腹部膨隆
- b 腸雑音消失
- c 腹部筋性防御
- d 直腸腫瘍触知
- e 反跳痛(Blumberg 徴候)

13 5歳の男児。発熱を主訴に来院した。3日前から38.5℃の発熱、咳、鼻汁、結膜充血および眼脂が出現した。初診時に口腔粘膜発疹がみられた。受診後いったん解熱傾向がみられたが、翌日から高熱が再び出現し、さらに全身に皮疹が出現した。口腔粘膜の写真(別冊No. 6A)と体幹の写真(別冊No. 6B)とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 麻疹
- b 風疹
- c 水痘
- d ヘルペス
- e 突発性発疹

別冊  
No. 6 写真A、B

14 58歳の男性。高血圧で通院中、自覚症状はなかったが不整脈が発見された。身長163 cm、体重70 kg。体温36.5℃。脈拍84/分、不整。血圧142/90 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認めない。頸部は視診と触診とに異常を認めない。心尖拍動は左鎖骨中線上第5肋間に認める。胸部聴診では心拍の不整を認めるが、呼吸音に異常は認めない。心電図(別冊No. 7)を別に示す。

この患者に必要な検査はどれか。

- a 下垂体機能
- b 甲状腺機能
- c 副甲状腺機能
- d 副腎皮質機能
- e 性腺機能

別冊  
No. 7 図

15 54歳の男性。日中の眠気を主訴に来院した。営業で日中は車を運転することが多く、週に1、2日は夜11時まで勤務する。毎日ビール500 ml缶を5缶飲む。元来健康で人一倍体力に自信があったが、最近身体がだるく、昼間の運転中によく居眠りしそうになる。妻から睡眠時いびきが大きく、時々息をしないことがあると言われている。身長165 cm、体重92 kg。脈拍84/分、整。血圧142/96 mmHg。血清生化学所見：空腹時血糖132 mg/dl、総コレステロール224 mg/dl、HDL-コレステロール38 mg/dl、トリグリセライド196 mg/dl、AST 37 単位、ALT 48 単位、 $\gamma$ -GTP 86 単位(基準8~50)。安静時心電図は正常。

この患者への指導で適切でないのはどれか。

- a ポリソムノグラフィ検査
- b 長時間運転の制限
- c 睡眠薬の内服
- d 体重の減量
- e 禁酒

16 52歳の男性。最近仕事が忙しく、食事が不規則になり、体重も減ってきた。他院で膵癌の疑いがあるといわれたので、検査データを持ってセカンドオピニオンを求めて来院した。CA19-9のみ上昇していた。CA19-9の膵癌検出の感度50%、特異度70%であり、この患者での膵癌の検査前確率を20%と仮定する。

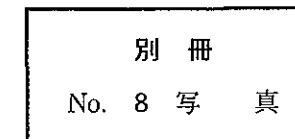
CA19-9の上昇を考慮した検査後確率に最も近いのはどれか。

- a 25%
- b 30%
- c 35%
- d 40%
- e 45%

17 53歳の男性。朝食直後に上腹部の激痛が突然出現したため救急車で搬入された。1週間前から右上腹部不快感が空腹時に出現し、食事によって軽減していた。体温38.5℃。脈拍104/分、整。血圧110/60 mmHg。腸雑音は消失し、腹部全体が板状硬化を呈していた。血液所見：赤血球520万、Hb 15.1 g/dl、白血球14,300、血小板46万。胸部エックス線写真(別冊No. 8)を別に示す。

この患者の処置で最も適切なのはどれか。

- a H<sub>2</sub>受容体拮抗薬静注
- b 塩酸モルヒネ筋注
- c 抗コリン薬静注
- d 抗菌薬静注
- e 緊急手術



18 58歳の男性。会議で発言中に突然倒れ、救急車で搬入された。同僚が心肺蘇生を施行したが、7分後救急隊到着時には心肺停止状態(心電図では心室細動)であった。救急救命士によって除細動(200ジュール、1回)されたがモニターでは心静止であった。ラリングアルマスクで気道確保され、バッグによる人工呼吸と心臓マッサージとを施行され、用手換気で良好な胸郭の動きが確認される。心電図モニターでは心静止である。右前腕静脈に静脈路を確保した。

この時点で標準的に用いられるのはどれか。

- a リドカイン
- b エピネフリン
- c プロカインアミド
- d ノルエピネフリン
- e イソプロテレノール

19 2歳の男児。ボタン型電池を誤飲し来院した。頸胸部エックス線単純写真で食道入口部に電池が停留しているのを確認した。

適切な処置はどれか。

- a 経鼻栄養チューブ挿入
- b 内視鏡下摘出
- c 頸部切開手術
- d 気管切開術
- e 経過観察

20 72歳の男性。頭痛を主訴に来院した。2か月前に家の中で転倒し、頭を打ったことがある。2週前から右上下肢の脱力感を自覚していたが、数日前から頭痛も自覚している。頭部単純CT(別冊No. 9A、B)を別に示す。

診断はどれか。

- a 脳腫瘍
- b 脳梗塞
- c 脳出血
- d くも膜下出血
- e 慢性硬膜下血腫

別冊  
No. 9 写真A、B

21 45歳の男性。「会社に行きたくない」と言って来院した。10歳ころから、人前で食事をしたり、話をしたりするのが極端に苦手になった。就職してからは、周囲から見られているようで、電車での通勤が辛かったと言う。最近部長に昇格し、朝礼の司会をせねばならなくなった。このことが辛く、退職したいとすら思うと言う。最も考えられるのはどれか。

- a うつ病
- b 不安障害
- c 統合失調症
- d Alzheimer病
- e 身体表現性障害

22 72歳の女性。屋内で尻もちをついた直後から腰部に激しい痛みを生じ、歩行困難となり搬入された。身長151cm、体重55kg。体温36.8℃。腰部に強い叩打痛を認める。血液所見：赤血球390万、白血球5,400。血清生化学所見：AST25単位、ALT28単位、ALP280単位(基準260以下)、Ca9.1mg/dl、P3.1mg/dl。CRP0.4mg/dl。腰椎エックス線単純写真側面像(別冊No. 10)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 腰椎椎間板ヘルニア
- b 骨粗鬆症
- c 転移性腫瘍
- d 大動脈解離
- e 腰椎症

別冊  
No. 10 写真



23 82歳の女性。直腸癌で入院したが、肝、肺および骨への転移があり、病名を知った本人の強い希望で退院した。在宅で療養し、自宅で最期を迎えることを希望している。86歳の夫との二人暮らしである。夫は妻の病名を知っており、強い不安を感じている。夫は妻のそばにいたいと考えているが、妻の死を受け入れることができていない。疼痛に対して医師の往診で塩酸モルヒネ徐放錠の服薬指導を受けているほか、訪問看護サービスと医師に紹介されたボランティアの訪問とを受けている。患者は2週間からはほぼ寝たきりでトイレへも行けず、少量の流動食をとるだけである。数日前から衰弱が激しく、呼吸困難が出現し、意識も混濁してきた。

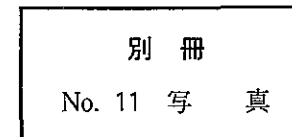
在宅医療を担当する医師の対応として適切なのはどれか。

- a 再入院の説得
- b 抗癌化学療法の開始
- c 気管挿管
- d 安楽死の助言
- e 夫への精神的ケア

24 44歳の男性。右足の潰瘍の悪化を主訴に来院した。7年前に糖尿病を指摘されている。3年前に靴ずれのあとが潰瘍化し、滲出液が出るようになった。来院3日前から潰瘍が急速に拡大し、痂皮が付着し悪臭を放っている。右足の写真(別冊No. 11)を別に示す。

まず行う処置はどれか。

- a 湿布
- b 創の縫合
- c 下腿切断
- d デブリドマン
- e 植皮による創の閉鎖



25 52歳の女性。腹痛を主訴に来院した。数年前から時々上腹部痛があり、昨年上部消化管造影を受け十二指腸球部の変形を指摘された。夫と二人暮らしである。5日前から空腹時にみぞおちが鈍く痛むようになり、2日前から黒色便が続いている。少し動くと動悸がする。意識は清明。身長157cm、体重48kg。体温36.5℃。脈拍112/分、整。血圧92/60mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。心雑音はなく、呼吸音に異常はない。上腹部に圧痛を認める。血液所見：赤血球270万、Hb7.0g/dl、Ht21%、白血球8,000、血小板24万。担当医は緊急上部消化管内視鏡検査と入院治療とが必要であると考えて説明を行ったが、患者は「夫の世話をしなければならぬので、内服薬をもらって帰りたい」と言っている。

検査と入院とを勧める際、信頼関係の構築に適切でないのはどれか。

- a 指示に従わない限り治療しないと示唆する。
- b 検査で判明する疾患を説明する。
- c 入院治療の効果を強調する。
- d 病態の重篤性を説明する。
- e 家族の協力を依頼する。

26 67歳の女性。乳癌の骨転移による疼痛を主訴として入院している。この患者と担当医の会話を以下に示す。

医師 ①「小林さん、痛みの具合はいかがですか」

患者 「来たときよりも大分ましです。ここ2週間はほとんど感じませんね」

医師 ②「2週間、痛みを感じないのですね」

③「ところで、一つ私から質問があるのですが、お聞きしていいですか」

患者 「ええ、どうぞ」

医師 「小林さんは入院されてからずっと病室で過ごされていますが、何かやってみたいことはありませんか。ここでの生活をできるだけ楽しんでいただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか」

患者 「ああ、そのことねえ。昨日も看護師さんに外泊や外出を勧められたけど、私はここでいいの。楽しくもないけど、まあまあ満足しています」

医師 「まあまあ満足しているということは、十分な満足ではないのですよね」

④「もしよかったら、満足具合をもっと詳しく教えていただけませんか」

患者 「そうねえ、私、昔からあまり人付き合いが好きな方じゃないのです。特別会いたいと思う友達もいないし、ホールに出て行って話したいとも思わないのです。一人で気ままにしているほうが楽しいの。それは自宅にいられたらということないのですが、今まで家で療養していて、家族に負担をかけていたので、少し休養させてあげたいんです。私も家族に気兼ねしながら自宅にいるより、一人でここにいるほうが、気が楽だしね。だから、今の状態で、まあまあ満足なんですよ」

医師 ⑤「なるほど、人付き合いがお好きじゃないし、外泊するよりも、今はここに一人であるほうが、気が楽なのですね」

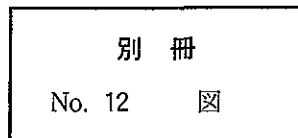
正しいのはどれか。

- a ①は痛みに限定した閉じられた質問(closed question)になっている。
- b ②は患者の解釈モデルを確認している。
- c ③は良い医師患者関係が成立していないことを示している。
- d ④は患者の本当の気持ちを聞き出そうとしている。
- e ⑤は聞き間違いがないかどうかの医師の不安感を示している。

27 44歳の男性。会社の健康診断で糖尿病と高血圧とを指摘されて入院した。自覚症状はない。夜間、排尿に起きることはない。身長170cm、体重78kg。脈拍72/分、整。血圧144/98mmHg。血液所見：赤血球474万、Hb15.4g/dl、Ht46%、白血球6,200。血清生化学所見：空腹時血糖130mg/dl、HbA<sub>1c</sub>6.4%（基準4.3～5.8）、総蛋白7.0g/dl、アルブミン4.4g/dl、AST48単位、ALT52単位、LDH324単位（基準176～353）。受け持ち医は研修医（中村）と指導医（佐藤）である。ある日の診療録（別冊No. 12）を別に示す。

診療録記載の問題点はどれか。

- a 問題指向型医療記録（POMR）になっていない。
- b 不適切な略語が多く使用されている。
- c 読みやすい字で書かれていない。
- d 指導医の確認がされていない。
- e 不適切な修正が行われている。



28 ある病院で患者会を開催したところ、以下のような意見が出た。

患者A「検査の進め方に不満を持っています。ある検査をした後、次にどのような検査をするのか、説明が不十分だと思います」

患者B「同室のAさんと私は、同じ病気で同じ治療を受けているはずなのに、食事内容や入浴がいつからできるかについて、それぞれの主治医が言うことが食い違っています。こういうことは医師によって考えが異なるのですか」

患者C「看護師や放射線技師が、医師の治療の進め方を十分には理解していないみたい」

この状態を改善するために最も適切なのはどれか。

- a 病院機能評価の受審
- b 臨床機能評価指標（クリニカルインディケーター）の確認
- c 患者満足度の調査
- d クリニカルパスの作成
- e 診療録の様式変更

29 2歳の男児。4時間前に紙巻きタバコを約1cm誤飲したため来院した。症状はない。

最も適切な対応はどれか。

- a 胃洗浄を行う。
- b 水を飲ませる。
- c 牛乳を飲ませる。
- d 緩下薬を投与する。
- e 無処置で観察する。

30 遠山○男、48歳の男性。急性骨髄性白血病と診断され、現在、寛解導入化学療法中である。昨日の血液検査では白血球1,760、血小板2.6万であった。本日午前10時ころ、心窩部痛とともに大量の吐血があり血圧が低下した。救急部と消化器内科とから医師が呼ばれ、緊急の救命処置がとられた。緊急内視鏡検査で胃潰瘍からの動脈性の出血を認め、内視鏡的に止血を試みたが、十分な止血が得られなかった。緊急に輸血が必要と考え、A医師によってO型Rh(+)赤血球濃厚液6バッグが輸血部にオーダーされた。15分後、交叉試験済みの血液6バッグが病棟に届けられ、4バッグがすぐに輸血され、2バッグは病棟の冷蔵庫に保管された。この病棟では、血液保管用冷蔵庫は4つの部分に分けられ血液型ごとに分けて保管することになっていた。患者の血圧がさらに下がったため、A医師の指示で輸血が追加されることになった。冷蔵庫から輸血バッグが看護師によってベッドサイドに運ばれ、B医師によって輸液ルートにつながれた。約10分後、A医師が輸血されている輸血バッグはO型Rh(+)であるものの「遠藤△子」と記されていることに気付いて、直ちに輸血を止めた。

この事故において最も重大な過誤はどれか。

- a 余分の血液バッグを病棟で保存した。
- b 冷蔵庫の内部を血液型ごとに分けた。
- c 冷蔵庫から持ち出す際に名前を確認しなかった。
- d 輸血を指示した医師と実際につないだ医師が異なった。
- e 輸血バッグを輸液ルートにつなぐ際に名前を確認しなかった。

次の文を読み、31、32の問いに答えよ。

65歳の男性。両側頸部と鼠径部とのリンパ節腫脹を主訴に来院した。

現病歴：3か月前からリンパ節腫脹が出現し、次第に増大してきた。この間、発熱や体重減少は認めていない。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長166cm、体重62kg。体温36.7℃。脈拍72/分、整。血圧116/66mmHg。皮膚は正常。心雑音はない。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。両側頸部と鼠径部とに、直径2～3cm大の表面平滑で弾性硬のリンパ節を各々数個触知する。可動性を認めるが圧痛はない。下肢に浮腫を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球524万、Hb15.2g/dl、Ht47%、白血球5,800(桿状核好中球2%、分葉核好中球56%、単球10%、好酸球4%、好塩基球3%、リンパ球25%)、血小板34万。血清生化学所見：総蛋白7.3g/dl、アルブミン4.2g/dl、尿素窒素12mg/dl、クレアチニン0.7mg/dl、総コレステロール217mg/dl、AST50単位、ALT28単位、LDH530単位(基準176～353)、可溶性IL-2受容体2,280U/ml(基準220～530)。免疫学所見：CRP5.4mg/dl、ツベルクリン反応陰性。

31 最も考えられるのはどれか。

- a 伝染性単核症
- b 悪性リンパ腫
- c 多発性骨髄腫
- d 結核性リンパ節炎
- e 癌のリンパ節転移

32 検査として適切でないのはどれか。

- a 骨髄穿刺
- b リンパ節生検
- c 胸腹部造影CT
- d 胸部エックス線撮影
- e 全身骨エックス線単純撮影

次の文を読み、33、34の問いに答えよ。

32歳の女性。無月経を主訴に来院した。

現病歴：毎月規則正しかった月経が今はなかったため来院した。1年前から月経量の増量に加え、月経痛もひどくなってきており、1週前から嘔気と乳房緊満感とを認めている。最近排尿回数が増えている。未婚であるがパートナーはいる。婦人科受診は初めてである。

既往歴：妊娠・分娩歴はない。

現症：意識は清明。身長160cm、体重46kg。脈拍72/分、整。血圧118/70mmHg。全身所見で特に異常は認めない。内診上、子宮は前傾前屈、新生児頭大、弾性硬。可動性はやや不良であるが圧痛はない。両側付属器は触知しない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球360万、Hb 10.0g/dl、白血球8,400、血小板28万。血清生化学所見：総蛋白6.2g/dl、アルブミン3.9g/dl、尿素窒素14mg/dl、クレアチニン0.8mg/dl、総コレステロール180mg/dl、AST 26単位、ALT 28単位、LDH 310単位(基準176~353)。妊娠反応陽性。

33 この女性の無月経の原因の診断に必要なのはどれか。

- a 腹部超音波検査
- b 下部消化管内視鏡検査
- c 腹部エックス線単純撮影
- d 腹部単純CT
- e 腹部MRI

34 この女性の合併疾患で最も考えられるのはどれか。

- a 急性胃炎
- b 慢性肝炎
- c 子宮筋腫
- d 尿路結石
- e 骨盤内炎症性疾患

次の文を読み、35、36の問いに答えよ。

38歳の男性。直下型地震で倒壊した家屋の下敷きになり救急車で搬入された。

現病歴：地震で倒れた柱に両側下肢を挟まれ、救助隊が到着するまで身動きがで  
きなかった。両側下肢に激痛がある。尿は出ていない。

現症：意識は混濁。身長177 cm、体重72 kg。体温37.1℃。脈拍112/分、  
整。血圧76/32 mmHg。皮膚は蒼白で冷たい。頸静脈拍動が臥位で認められな  
い。両側下肢に皮下出血と腫脹とを認める。救出から搬入まで尿は出ておらず、入  
院後にカテーテルの導尿によって10 mlの尿が得られた。

検査所見：尿所見：色調はコーラ色、蛋白1+、糖(-)、潜血1+。血液所見：  
赤血球310万、Hb 11.2 g/dl、Ht 30%、白血球13,700、血小板34万。血清生  
化学所見：総蛋白6.5 g/dl、アルブミン4.5 g/dl、尿素窒素40 mg/dl、クレアチ  
ニン2.5 mg/dl、尿酸8.0 mg/dl、総ビリルビン0.9 mg/dl、AST 700単位、ALT  
140単位、CK 10,200単位(基準10~40)、Na 135 mEq/l、K 7.1 mEq/l、Cl 111  
mEq/l。心電図でT波の増高が認められる。

35 尿がコーラ色なのは何を含んでいるためか。

- a ビリルビン
- b ポルフィリン
- c ミオグロビン
- d ウロビリノゲン
- e メトヘモグロビン

36 輸液として最も適切なのはどれか。

- a 生理食塩液
- b 脂肪栄養液
- c アミノ酸栄養液
- d 5%ブドウ糖液
- e カリウム含有低張液

次の文を読み、37、38の問いに答えよ。

68歳の男性。下腹部の痛みと尿が出ないことを主訴に来院した。

現病歴：3年前から頻尿、残尿感および排尿困難があったが放置していた。2時間前に自宅で晩酌をしていたところ、下腹部に痛みが出現し、触ると痛みが増強した。排尿ができず、痛みも持続している。

既往歴：5年前から高脂血症を指摘されているが放置している。

生活歴：喫煙20本/日を30年間。飲酒晩酌程度。

現症：意識は清明。身長163cm、体重65kg。体温36.5℃。脈拍100/分、整。血圧156/90mmHg。上腹部はほぼ平坦で、肝・脾は触知しない。下腹部は軽度膨隆しており、正中に腫瘤を触知し、同部に圧痛を認める。下肢に浮腫を認めない。骨盤部超音波写真(別冊No. 13A、B)を別に示す。

別冊  
No. 13 写真A、B

37 この患者にまず行うのはどれか。

- a 洗腸
- b 導尿
- c 酸素療法
- d 静脈路確保
- e 利尿薬投与

38 考えられるのはどれか。

- a 尿路結石
- b 尿路感染症
- c 前立腺肥大症
- d 汎発性腹膜炎
- e 急性糸球体腎炎



次の文を読み、39、40の問いに答えよ。

58歳の男性。夜間の呼吸困難のため救急車で搬入された。

現病歴：4年前に狭心症と診断され、アスピリンと硝酸薬とを服薬していたが、半年前から中断していた。3か月前から駅の階段を昇るとき軽度の胸痛を感じていた。2日前冷汗を伴う前胸部絞扼感が数時間持続し、自宅での安静で軽快した。しかし、昨夜就寝後呼吸困難のため覚醒した。横になると呼吸困難が再発するので眠れず、午前3時に来院した。

既往歴：8年前に糖尿病を指摘された。

現症：意識は清明。身長169cm、体重75kg。呼吸数28/分。脈拍104/分、整。血圧102/88mmHg。頸静脈の怒張を認めるが、心雑音はない。両側下肺野にcoarse cracklesを聴取する。右肋骨弓下に圧痛を認める。両側下腿に浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白1+、糖2+。血液所見：赤血球430万、Hb14.2g/dl、Ht42%、白血球9,500、血小板30万。血清生化学所見：血糖150mg/dl、HbA<sub>1c</sub>8.8% (基準4.3~5.8)、総蛋白7.0g/dl、尿素窒素26mg/dl、クレアチニン1.2mg/dl、総コレステロール224mg/dl、トリグリセライド190mg/dl、総ビリルビン0.8mg/dl、AST60単位、ALT34単位、LDH620単位(基準176~353)、CK960単位(基準10~40)、Na148mEq/l、K4.6mEq/l、Cl103mEq/l。経皮的動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)96%(酸素3l/分投与下)。入院時の胸部エックス線写真(別冊No. 14A)と心電図(別冊No. 14B)とを別に示す。

別冊  
No. 14 写真A、図B

39 この患者の病態の原因はどれか。

- a 肺炎
- b 狭心症
- c 心筋梗塞
- d 拡張型心筋症
- e 大動脈解離

40 この患者にまず必要な治療薬はどれか。

- a 血糖降下薬
- b フロセミド
- c リドカイン
- d カルシウム拮抗薬
- e ノルエピネフリン

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

58歳の男性。激しい頭痛と嘔気とを主訴に来院した。

現病歴：最近多忙で睡眠不足が続いていた。仕事中にこれまで経験したことがない激しい頭痛が起き、嘔気も伴った。横になって安静にしていたが、6時間後でも頭痛は軽快していない。

既往歴：40歳時から健診を受け、毎年高血圧を指摘されているが、治療はしていない。

現症：顔貌は苦悶状で、頭をおさえて「痛い、痛い」と言い、時に嘔気も訴えている。体温36.9℃。脈拍92/分、整。血圧182/102 mmHg。頸部の前屈で強い抵抗を認める。心雑音はなく、呼吸音にも異常を認めない。腹部はほぼ平坦で、肝・脾を触知せず、圧痛を認めない。下肢に浮腫を認めない。四肢に明らかな麻痺はない。深部腱反射は正常で、病的反射は認めない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球420万、Hb13.0 g/dl、Ht36%、白血球6,800、血小板21万。CRP0.2 mg/dl。

41 最も考えられるのはどれか。

- a 片頭痛
- b 脳梗塞
- c 脳出血
- d 急性髄膜炎
- e くも膜下出血

42 この疾患の診断でまず行うのはどれか。

- a 頭部単純CT
- b 脳脊髄液検査
- c 頭部単純MRI
- d 凝固・線溶検査
- e 頸動脈超音波検査

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

78歳の女性。夜間の呼吸困難のため救急車で搬入された。

現病歴：2年前から労作時の息切れを自覚していた。昨晚、就寝2時間後息苦しくなり、ふとんの上で座ると少し楽になるものの、息苦しさが持続している。

既往歴：56歳から高血圧症で加療中である。

現症：意識は清明。身長154 cm、体重60 kg。体温36.6℃。呼吸数24/分。脈拍108/分、整。血圧184/110 mmHg。貧血と黄疸とを認めない。頸静脈怒張を認めない。心音は奔馬調律。両側下肺野に coarse crackles を聴取する。下腿に浮腫を認めない。

検査所見：尿所見：比重1.024、蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)、沈渣に異常を認めない。血液所見：赤血球360万、Hb12.2 g/dl、Ht35%、白血球8,900、血小板19万。血清生化学所見：尿素窒素24 mg/dl、クレアチニン1.2 mg/dl、AST28単位、ALT30単位、LDH317単位(基準176~353)、CK108単位(基準10~40)、Na139 mEq/l、K4.5 mEq/l、Cl105 mEq/l。胸部エックス線写真(別冊No.15)を別に示す。

別冊  
No. 15 写真

43 診断はどれか。

- a 喘息
- b 胸膜炎
- c 自然気胸
- d 大動脈解離
- e うっ血性心不全

44 まず行うのはどれか。

- a 降圧療法
- b 輸血
- c 副腎皮質ステロイド薬投与
- d 胸腔穿刺
- e 緊急手術

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

53歳の男性。右のどの痛みを主訴に来院した。

現病歴：1か月前から食物を飲み込むときに右咽頭部の鈍い痛みを自覚するようになった。

既往歴：10年前から糖尿病と高血圧とで通院している。

生活歴：喫煙40本/日を33年間。

現症：意識は清明。身長165cm、体重65kg。体温36.3℃。脈拍72/分、整。血圧140/90mmHg。右頸部に圧痛を認めるが、リンパ節は触知しない。血液所見：赤沈15mm/1時間、赤血球500万、Hb14.5g/dl、Ht40%、白血球6,000、血小板23万。CRP0.3mg/dl。下咽頭の内視鏡写真(別冊No.16)を別に示す。頸部造影CTではリンパ節の腫大は認めない。生検で扁平上皮癌と診断された。

別冊  
No. 16 写真

45 対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 温熱療法
- c 放射線治療
- d 喉頭全摘術
- e 動脈塞栓術

46 今回の病気をきっかけに禁煙を決意したが、まだ成功していない。受診時の医療面接での会話を以下に示す。

医師 ①「なかなかうまくいきませんね。どうしてダメなのでしょうね」

患者 「意思が弱いからでしょうかね」

医師 ②「たばこをやめられたら、どのようになっているのでしょうかね」

患者 「この病気になったのもたばこが悪いんでしょう。だから病気がよくなったのどの痛いのも治るんでしょう」

医師 ③「そうですね。治るとよいですね。でも、1日40本吸っていたのが20本に減ってきたのですからすごいじゃないですか」

患者 「そうですかね」

医師 ④「もう一歩ですね。何かいい方法はないでしょうかね」

患者 「口が寂しいのでつい手がのびてしまうんですけどね。ダミーのパイプでも買ってみようかな」

医師 ⑤「そうですね。いいかもしれませんね。次にいらっしゃるときまでに減らす目標を立ててみませんか」

患者 「今度までに1日10本まで減らしてみようかな」

行動変容に寄与する度合いが少ないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

8か月の乳児。急に激しく泣き、嘔吐したため来院した。

現病歴：2時間前から突然激しく泣き始めた。その後泣き止み、ぐったりしていたが、再び泣き始め、このような発作を繰り返している。30分前に1回嘔吐がみられた。排便は6時間前にあり、普段と変わらない固形便であった。

既往歴：特記すべきことはない。予防接種はDPT2回とBCGとを受けている。

現症：体温37.2℃。呼吸数40/分。心拍数140/分、整。顔色不良で、顔貌は無欲様である。聴診で心雑音はなく、呼吸音も正常である。腹部は軽度膨隆し、右季肋部に鶏卵大の腫瘤を触れる。

47 まず行うのはどれか。

- a 輸液
- b 腹腔ドレナージ
- c 胃洗浄
- d 洗腸
- e 経過観察

48 診断の確定に必要なのはどれか。

- a 消化機能検査
- b エックス線単純撮影
- c 超音波検査
- d 内視鏡検査
- e 核医学検査

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

68歳の男性。嚥下障害を主訴に来院した。

現病歴：1か月前肉片がつかえ、そのときは水を飲んで通過させたが、以後固形食がしばしばつかえるようになった。この1か月で5kgの体重減少がみられる。

2日前から水分しか通らなくなった。

生活歴：飲酒週2日、ビール大瓶1本/回を40年間。喫煙30本/日を40年間。

現症：意識は清明。身長164cm、体重65kg。体温36.1℃。脈拍76/分、整。血圧146/98mmHg。心雑音はなく、呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟。肝・脾を触知しない。

検査所見：血液所見：赤血球365万、Hb10.9g/dl、Ht35%、血小板29万。

血清生化学所見：総蛋白5.8g/dl、アルブミン2.9g/dl、尿素窒素22mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl、総ビリルビン0.6mg/dl、AST18単位、ALT10単位、Na146mEq/l、K4.5mEq/l、Cl105mEq/l。食道造影では水溶性造影剤の通過が遅延し、食道中部から下部に高度の不整狭窄像を認める。

49 対応として最も適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 流動食
- c 輸血
- d 経鼻経管栄養
- e 中心静脈栄養

50 この患者の発病に最も関連したと考えられるのはどれか。

- a 飲酒
- b 喫煙
- c 肥満
- d 低栄養
- e 高血圧